

令和7年1月17日

東京都千代田区四番町5番地3  
科学技術振興機構（JST）  
Tel：03-5214-8404（広報課）  
URL <https://www.jst.go.jp>

## 大学発新産業創出基金事業 早暁プログラム ステージ1 令和6年度新規採択課題の決定について

JST（理事長 橋本 和仁）は、「早暁（そうぎょう）プログラム」ステージ1における令和6年度の新規課題を決定しました（別紙）。

本プログラムでは、大学等発スタートアップ創出に向けて、ビジネス視点を持つ事業化人材<sup>注</sup>が、起業経験や投資経験などを有するメンターによるメンタリングを受けながら、自らが描いた事業化構想を実現させるために大学等の技術シーズを探索し、研究者とチームになってビジネスモデルのブラッシュアップと研究開発を推進することで、大型ギャップファンドなどの次のフェーズへの移行を目指します（参考）。

本年度は令和6年9月5日（木）から10月31日（木）まで提案募集を行い、53件の応募がありました。それらの応募に対し外部専門家で構成された委員会による書類審査と面接審査を実施し、その結果を基に20件の新規課題を決定しました。

本プログラムの詳細については下記ホームページをご覧ください。

URL：<https://www.jst.go.jp/program/startupkikin/sogyo/index.html>

### 注）事業化人材

自らの事業化構想を実現するための技術シーズ（事業化を目指す上で核となる研究成果など）の探索と、技術シーズを活用したビジネスモデルの構築を行う人材。

### <添付資料>

別紙：大学発新産業創出基金事業 早暁プログラム ステージ1 採択課題一覧  
（令和6年度審査分）

参考：大学発新産業創出基金事業 早暁プログラム 概要

### <お問い合わせ先>

科学技術振興機構 スタートアップ・技術移転推進部

〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's五番町

桑田 真宏（クメタ マサヒロ）

E-mail：[sogyo\[at\]jst.go.jp](mailto:sogyo@jst.go.jp) ※お問い合わせは電子メールでお願いします。

### <科学を支え、未来へつなぐ>

例えば、世界的な気候変動、エネルギーや資源、感染症や食料の問題。私たちの行く手にはあまたの困難が立ちはだかり、乗り越えるための解が求められています。JSTは、これらの困難に「科学技術」で挑みます。新たな価値を生み出すための基礎研究やスタートアップの支援、研究戦略の立案、研究の基盤となる人材の育成や情報の発信、国際卓越研究大学を支援する大学ファンドの運用など。JSTは荒波を渡る船の羅針盤となって進むべき道を示し、多角的に科学技術を支えながら、安全で豊かな暮らしを未来へとつなぎます。

JSTは、科学技術・イノベーション政策推進の中核的な役割を担う国立研究開発法人です。

大学発新産業創出基金事業 早暁プログラム ステージ1  
採択課題一覧（令和6年度審査分）

事業化人材	課題名
相山 佑樹	集中治療室の診療効率化と価値共創型医療の実現
運 愛斗	多孔性材料による中分子医薬品の精製
梶山 一臣	生成AIによる産業安全のリスクアセスメント
河野 功	次世代チップスケール原子時計の国内量産化
佐野 智	空気からつくる宇宙食
白井 紗耶加	BMI（ブレイン・マシン・インターフェース）技術を用いた義足の開発
末宗 拓馬	革新的なタンパク質製造・構造解析技術を活用した新産業の創出
杉村 正暁	稲作から酒造迄のプロセスにおけるCO <sub>2</sub> 回収ビジネス、Jクレジット化
園生 悠太	有効な既存治療がない心不全疾患に対する新規医療機器の開発
高須賀 聖五	“3Dプリンタ×機械学習”による次世代のポリマー販売戦略
田中 柚希	バイオインフォマティクス及び合成生物学を活用した乳幼児向け栄養素の作製
辻井 豪佑	未利用水産資源を原料とした機能性家畜飼料の開発
寺田 曜	エコープローブの革新により、エコーの可能性を最大化する
橋口 理佳	洗浄機能付きマイボトル用自動販売機
針崎 康太	動物園飼育員の猛獣による死傷事故の撲滅
疋田 啓太	キレイな空気による農業ブランディング
藤野 沙季	太陽活動データ解析によるオーロラの明るさと発生時期予報サービス
友政 蘭	新規作用機序による抗がん剤の開発
森 健太郎	データセンター業界の抱える課題を解決する技術シーズの事業化
若口 明人	炭素繊維エコサイクル創造：炭素繊維複合材料のリサイクル技術とリサイクル炭素繊維（rCF）を用いた新材料開発

## 大学発新産業創出基金事業 早暁プログラム 概要

### 1. 大学発新産業創出基金事業の趣旨

大学発新産業創出基金事業は、「スタートアップ育成5か年計画」（令和4年11月政府発表）などを踏まえ、日本における大学等発スタートアップ創出力の強化に向けて、研究開発成果の事業化や海外での事業展開の可能性検証を視野に入れた研究開発を推進するとともに、地域の中核となる大学等を中心とした産学官共創による大学等発スタートアップ創出支援などの実施を可能とする環境の形成を推進します。

### 2. 早暁プログラムについて

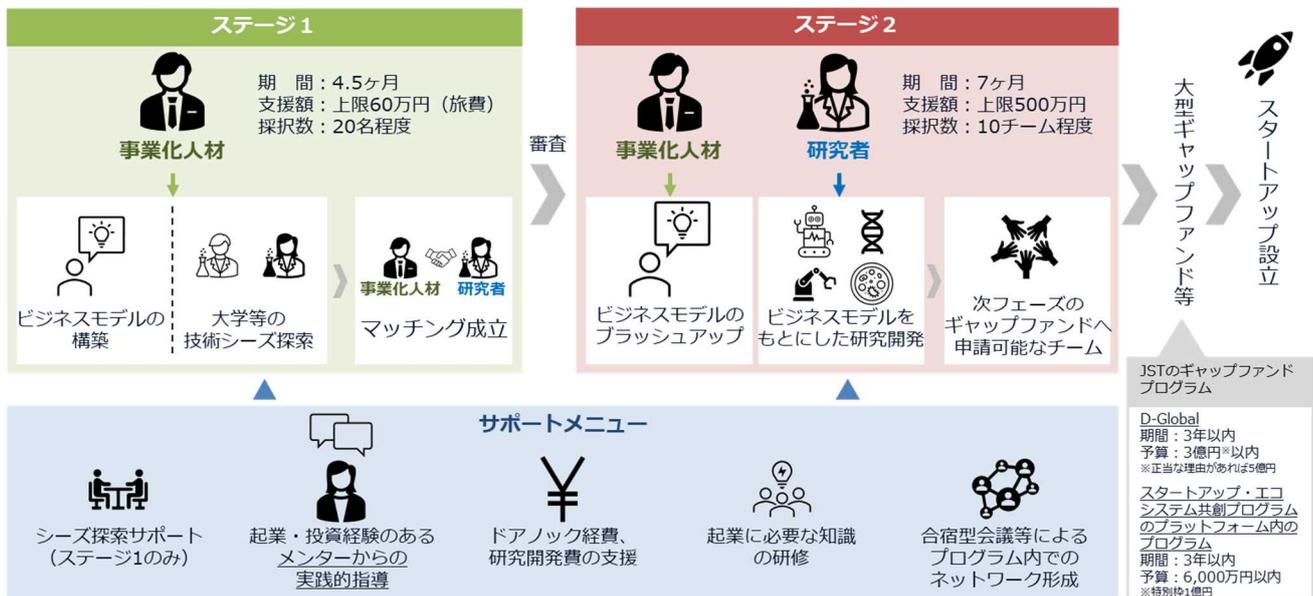
#### (1) 概要

本プログラムは、ステージ1とステージ2で構成されています。

ステージ1では、自らの事業化構想を実現するための技術シーズの探索および技術シーズを活用したビジネスモデルの構築を行う事業化人材を公募します。

審査により選ばれた事業化人材は、メンターによるメンタリングを受けながら、自らが描いた事業化構想を実現させるために大学等の技術シーズを探索し、研究者とチームアップして研究開発課題の提案を行います。提案された研究開発課題から、審査によりステージ2実施課題を選抜します。

ステージ2採択チームは、メンターによるサポートの下、事業化に向けた研究開発（科学的な検証）やビジネスモデルのブラッシュアップを行います。



#### (2) 活動期間ならびに研究開発期間

ステージ1活動期間：4.5ヵ月

ステージ2研究開発期間：7ヵ月

#### (3) 活動費ならびに研究開発費

ステージ1活動費：上限60万円

ステージ2研究開発費：上限500万円（研究開発期間総額、直接経費）

以上